

企画委員会とは

プラザ事業運営の 職員ではない、 もう1つの担い手。

あなたの“やってみたいこと”を
企画委員会で企画化。



あなたがやりたいこと
を定例会で共有

多くの人に楽しんでもらえる
ようにみんなで企画化

企画委員が
主体的に準備・運営

あなたの強みに。

市の公共施設が拠点の活動であり、ほかにはない組織。そのため「学生時代に力をいれたこと（ガクチカ）」としてアピールできます。もちろん、様々な人と関わる活動なのであなた自身の経験値にもなるでしょう。

皆さんのがんばりを公式に証明する「ボランティア証明書」も発行しています。



安心して参加できる。

参加費は無料、交通費程度の謝金をお渡しするので金銭的な負担はありません。また「ボランティア保険」に無料加入でき、施設内外でのトラブルも保障されるため、安心してボランティア活動できます。



あなたの輝く場所はここにある。

新しいことを
はじめたい。

青春を味わいたい。

自分を変えたい。

友だちがほしい。

将来にプラスに
なることをやりたい。

「チーム」に
入りたい。

どんな気持ちでも大丈夫。

ここはあなたの居場所でもあります。

企画委員会は、プラザの事業企画・運営に対して意見を表明する。

企画委員会は、青少年向けの事業を企画・運営する。

企画委員会は、プラザの広報・情報発信をする。

企画委員会は、地域貢献活動を行う。

プラザの事業企画・運営について青少年の参画を促し、意見を反映するため企画委員会を置く。（企画委員会実施要綱より）

INTERVIEW

令和7年度から企画委員として活動しているメンバーにいろいろ聞いてみました。

Q. 企画委員会に入ったきっかけは？

A. 高校2年生の時に部活を辞め、進路に何か役立つことはないかと探し、たどり着いたのがボランティアでした。そこで楽しそうだなと思い参加したが、「ユースボランティア（プラザの登録制ボランティア活動）」です。活動が終わり職員さんに企画委員のこれについて教えていただき、もっとプラザでのボランティア活動をしてみたいと思い、企画委員会に参加しました。

Q. 企画委員会の良いところは？

A. 自分の意見が前よりもはっきり言えるようになったことです。もちろん入ってばかりの時は話し合いの場面で自分の意見があまり言えなかったのですが、イベントを重ねるにつれて、自分のやりたいことを伝えることが前よりもかにも出来るようになりました。また、家族や学校ではない場所で幅広い年代との関わりが増えることで、今までにない経験ができるということも企画委員会の魅力だと思います。



高校生

Q. 企画委員会に入ったきっかけは？

A. 大学に入学し、何か新しいことを始めてみたいと探していたところ企画委員会を見つけました。インターネットからこの活動を見つけ、内容を見てみると自分の知っているボランティアとは全く違う、「企画を作り上げる」という活動にとても惹かれ、参加を決めました。

Q. 企画委員会に入って良かったことは？

A. 私はこの活動を通して明確にグループワークが上手くなったと感じています。活動の中で一つの企画を作り上げるため、定例会（月2回の企画会議）の度に話し合いの時間が設けられます。最初は関係性も築けておらず、ぎこちない会話だったものが、繰り返し話し合うなかでメンバーのことがわかってきて、どんどん話し合いが活発になっていきました。職員の方々の様々なサポートによって、たった数時間の話し合いがとても有意義で楽しい空間となっていました。また、自分たちが作り上げた企画を楽しんでくれる来館者の笑顔や達成感はこのように感じることができています。この身に付けた力は大学など様々な場所で活かしていますし、一年やってきて改めて挑戦して良かったと感じています。



大学生

Q. 企画委員会に入ったきっかけは？

A. 自分が成長できる場所、そして自分の居場所を探していたところ、インターネットで名古屋市の公共施設での地域貢献活動である企画委員会を見つけました。ここで活動できるといいと思い、参加を決めました。会議で発言したり意見を言ったりするのには苦手意識があり、イベントの企画運営を通して発言や提案をできるようになりたいと思い、参加しました。

Q. 企画委員会でしかない経験は？

A. 1つ目は様々な年代の方と交流し、仲間になれることです。企画委員会は高校生から社会人まで幅広い年代の方が共に活動しています。したがってさまざまな意見を聞くことができ、その上企画委員会でしか出来ない方々と仲良くなれます。2つ目は仲間や職員の方々のサポートを受けながら挑戦できる環境にあることです。自分は副委員長として活動していましたが、みんなのサポートがあったからこそ一年間乗り越えられたと確信しています。安心して自分がやってみたいと思うことができる環境が整っています！



大学生

新しい挑戦をするのもってこの場。
ハードルが高く感じる「地域貢献活動」に
自分らしく取り組むことができます。